

2010年(平成22年)2月14日 日曜日

ヒルギダマシなどの苗木を植える平一小の5年生たち  
＝下地与那覇サニツ浜



平一小  
5年生

# マンングローブ植樹

平一小学校5学年PTA(下地洋昭会長)は13日、下地与那覇のサニツ浜でマンングローブ植樹を行った。宮古島環境クラブと連携し、宮古が分布北限のヒルギダマシやオヒルギの苗木を植えた。児童たちは活動に先立ってマンングローブの役割などについて勉強しており、植樹を通して自然の大切さを実感していた。

今回の植樹は県の緑化助成事業「うまんちゅ協働の花と緑の美しい島づくり事業」の一環として実施。植樹場所にはネームプレートを設置し、今後長期間にわたって生育管理と観察を行っていく。また同クラブでは3月14日に下地嘉手対のヤバルやすらぎの森公園でもサガリバナの植樹を予定している。

植樹には児童96人と父母らが参加。同校の儀間裕芳校長が「きょう植えた木を10年20年と皆さんが見守ってほしい」とあいさつ。同クラブの下地邦輝会長が「マンングローブは真水や地下水などがある海岸にしか生えない。この活動を通して自然への理解を深め、マンングローブがどういったものか考えてほしい」と呼びかけた。

児童たちは潮の引いた干潟に入り、泥を掘ってオヒルギ100本、ヒルギダマシ30本の苗木を植えた。下地会長は「環境クラブの協力で学年行事の枠を超えた大きな事業となり、大勢の父母も参加してくれた。自分が植えた木を通して宮古の自然が育つ姿と一緒に見てほしい」と話した。

# 生態系を守ろう

## 平一小5年生 マングローブ植え付け

下地与那覇湾

下地与那覇湾で13日、マングローブの植樹が行われた。子どもたちが植え付け作業を通して、生物が住みやすい生態系をつくるには、どういった活動が必要かなどを考えた。参加したのは平良第一小5年生96人と、宮古島環境クラブのメンバー。川満漁港の苗床で育てた10カ月のオヒルギ100本と、1年

過ぎたヒルギダマシ30本を植え付けた。地域ぐるみの緑化活動を支援する県の「うまらんちゅ協働の花と緑の美しい島づくり事業」の助成金を活用。同環境クラブが実施している市民による「ヤールヤール」の森水辺緑化事業の一環でもある。児童たちは、マングローブを植える意義などを学んだ後、すくす

くと育つようお願いながら一人一本ずつを植え付けた。伊良部知也君は「枯れずに大きく育ってほしい。ヒルギダマシは宮古には少なく、植樹で増やし育てていくことが大切だと思った」と話した。植え付けなどを指導した同クラブ会員の金子導夫さんは「マングローブは地球上に残さ



仲間と一緒にマングローブを植樹した児童たち＝13日、下地与那覇湾サニツ浜

れた貴重な植物。それを植樹することで、子どもたちが環境や自然を大事にしていくことを学んでもらえば」と語った。



## 緑の島願い 140本植樹

### 宮古島 環境ク・平良一小

【宮古島】宮古島の水環境や地下水と自然の大切さを理解しようと、宮古島環境クラブ(下地邦輝会長)と市立平良第

マングロープの苗木を植えた平良第一小学校5年生の児童ら  
〓 宮古島市下地・サニツ浜

一小学校(儀間裕芳校長)5年生96人は13日、市下地与那覇のサニツ浜東海岸で、マングロープの苗木約140本を植樹した。

県の緑化助成事業「うまんなちゆ協働の花と美しい島づくり事業」の助成金を受け、同ク

ラブが進める「宮古島市民によるヤーバルやすらぎの森水辺緑化事業」の一環。児童たちは保護者と一緒に、オヒルギ105本とヒルギタマン36本を植えた。新城隼郎君(10)は「木は二酸化炭素を吸う。緑がいつばいの島に戻ればいいなと思う」と話した。同クラブはこれまで、おきなわ環境クラブ宮古支部として活動していたが、任意団体として2009年12月10日に設立された。